

## 第1回ものづくりマイスター推進会議 議事概要

日時：平成25年5月21日(火)14:00-16:00

事務局からの事業構成、中央センターからの事業計画等についての説明を踏まえ、構成員より以下のような意見。

全技連マイスター、都道府県マイスターとの関係を明確化すべき。

学校での実技指導等のプログラムについて、学校側からの依頼を待つだけでなく、こちらからも積極的に依頼を行うこと。

ものづくりマイスターの有効期間・更新・経験年数・年齢制限の考え方をどのように整理すべきか。

地域別の産業構造の偏りも踏まえ、他県のマイスターの派遣についてどのように整理すべきか。

小学校を対象にした親子の体験教室や、ものづくり体験などの場に、技能者が派遣されることがあるが、段取りについて学校側も苦労している。実技指導後の工具の取扱い・段取り等含め、サポート体制が必要。

本事業を通じ、技能士の評価が少しでも向上するよう尽力いただきたい。

バッチや意匠の制作など、マイスターのインセンティブがあるとよい。

認定要件についてはシンプルな仕組みとした方がよい。

工業高校のニーズが高いが、材料費負担について援助して欲しいという声がある。

中小企業においては、技能指導のために設備を空けることは難しい。また、技能検定の会場で用いられる設備と、指導の場の設備とのマッチングを行わないと技能検定で合格に至りにくいということもあり、比較的大きな企業の設備を借りて他企業の者の指導を行うことも考えられるのでは。

認定訓練校等とうまく連携し、マイスターを動かすコーディネーターの育成を含め、ネットワークをしっかり作る必要。

ものづくり技能について、一般にはまだ認知度は低いと思うので、例えば新聞・テレビを使うなど、ユーチューブを使うなど、早め早めに、広くアピールしていただきたい。

工業高校で熟練技能者による実技指導を行うに当たっては、関係団体の協力が非常に成果を上げている。生徒に実技指導する場合もあるが、スキルアップのため、先生に対して指導することもある。これからもこのような制度を有効に使っていければいい。

今後の予算確保、他省との連携の戦略が重要。